

複合施設 復興の象徴に

東日本大震災に伴う仙台市の防災集団移転跡地の活用事業で、建設業の深松組（青葉区）が若林区藤塚に整備する農園、温泉、レストランの複合施設「アクアイグニス仙台」の建物の起工式が14日、現地であった。完成は2021年10月の予定で、22年4月のオープンを目指す。

農園、温泉建物着工 22年4月オープン

周辺町内会や工事の関係者ら 約80人が出席。郡和子市長、運営会社「仙台reborn」社長を兼ねる深松努社長らがくわ入れし、工事の安全を祈願した。

啓民、鶴岡市のイタリア料理店「アル・ケッチアーノ」オーナーシェフの奥田政行氏、東京の人気和食店「贅舌両論」店主の笠原将弘氏が、提供メニューなどを監修する。

仙台・藤塚の集団移転跡地

周辺町内会や工事の関係者ら約80人が出席。郡和子市長、運営会社「仙台reborn」社長を兼ねる深松努社長らがくわ入れし、工事の安全を祈願した。深松社長は「震災で集落が流

待したい」と激励した。敷地面積3万2500平方メートルに建物6棟と農業ハウス3棟を整備する。鉄筋コンクリート2階の温泉棟は海に面し、浴室から海岸や干潟が見られる。高さは15メートルあり、津波発生時は2000人の避難場所になる。木造平屋のレストラン棟、ス

「アクアイグニス」ブランドの施設は、同名の会社（東京）が三重県で運営。東日本は初進出となる。深松組は今年4月に造成工事の起工式を実施した。

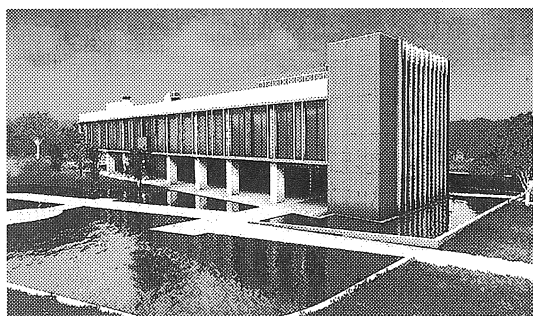


①温泉、レストラン、ベーカリーなどを備えた「アクアイグニス仙台」の完成予想図
②起工式でくわ入れし、工事の安全を祈願する郡市長（中央）ら



創造的復興のシンボルに

深松組（仙台市、深松努社長）などが、東日本大震災で被災した仙台市東部沿岸部の防災集団移転跡地に整備する「アクアイグニス仙台」の新築工事起工式が14日、同市若林区藤塚の現地で開かれた。藤塚の文化・自



温浴棟の完成予想図

深松組ら アクアイグニス仙台が起工



鎌入れする平野社長（右）と堀籠社長

然を五感で味わいつくす、ネイチャーゾーンの「中核施設」をキーワードに約3・2畝の敷地に天然温泉や農園レストラン、スイーツカフェなどを配置する。創造的復興のシンボル施設として、2022年4月のオープンを目指す。



鎌入れする深松社長（右）と郡市長（中央）、立花社長

トを運営するアクアイグニス（三重県菟野町、立花哲也社長）と深松組のコラボレーション事業。辻口博啓氏ら著名シェフ3人と協働し、「癒しと食」の複合施設を展開する。



鎌入れする深松副社長（右から3人目）、船山社長（同4人目）ら

設計はARTSとBAU建築設計室、深松組の3者が担当。施工は温浴棟本体が深松組、温浴棟以外の本体は阿部和工務店・中城建設JV、電気設備はユアテック、機械設備は興盛工業所がそれぞれ担う。運営は深松組などが設立した仙台reborn（深松社長）が実施する。神事には深松社長や立花社長、郡和子仙台市長、平野信義ARTS社長、堀籠孝之BAU建築設計室社長、深松徹深松組

「癒しと食」の複合施設展開

副社長、船山克也阿部和工務店社長ら約80人が出席。代表者による鎌（くわ）入れの後、神前に玉ぐしをささげ、工事の安全と早期完成を祈願した。

神事後、あいさつに立った深松社長は「震災で大変な被害を受けた藤塚地区のにぎわいを取り戻すとともに、復興のシンボルとして施設をつくりあげていきたい」と述べた。

郡市長は「藤塚地区は東部復興道路路からのアクセスが良く、震災遺構を見学する国内外の人々が訪れることが予想される。震災の記憶と経験を伝え、地域の人々と交流する場となることに期待したい」と祝辞を寄せた。

最後に施工者を代表して船山社長が「藤塚地区の魅力を最大化させ、施設に訪れる人々の笑顔を思い浮かべながら、安全に品質の良い建物を完成させたい」と決意を表した。

深松組ら仙台reborn

深松組（仙台市青葉区、店（仙台市青葉区、松山克深松努代表取締役社長）らで構成する仙台reborn株式会社は14日「アクアインス仙台」の新築工事起工式を仙台市若林区藤塚地区で開催した。建築施工者は深松組と、阿部和工務



深松社長

がテーマの複合施設で、仙台沿岸部の復興、そして賑わいのシンボルとして期待される。2022年春のオープンを目指す。式典には、深松社長ら仙

台rebornのメンバー、台市、銀行などプロジェクトで、復興創生と賑わいの仙台市の郡和子市長、衆議院の土井亨議員、設計・施工者ら関係者約80人が出席。工場の無事故・無災害を祈願した。深松社長は、地権者や仙

複合施設の建築起工

にも、施設が創造的復興の象徴となることを期待する」と述べ、工事の無事の完了を祈念した。施工者を代表して阿部和工務店の船山社長が「アクアインスの施工者として

アクアイグニス仙台



（左から）BAU建築設計室の堀籠代表取締役、ARSの平野代表取締役が鎌入れ

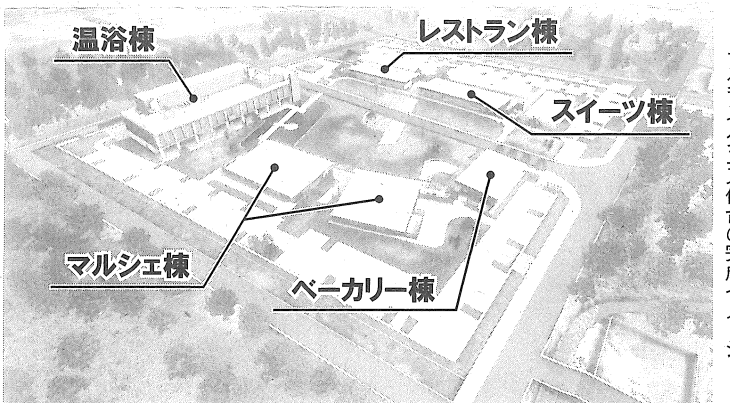


（左から）アクアイグニスの立花代表取締役、郡市長、深松社長が鎌入れ



建築と電気・機械設備の施工者が鎌入れ

いた。利用者の笑顔を思い浮かべながら、高品質の施設を安全に工期内に完成させる」と力を込めた。アクアイグニス仙台は、仙台市の防災集団移転跡地となる名取川河口の藤塚地区約3・8haに整備する。整備事業は仙台市の移転跡地活用事業として19年4月に選定されており「藤塚の文化・自然環境を五感で味わいつくす、ネイチャーゾンの中核施設」をキーワードに天然温泉棟、レストラン棟、マルシェ2棟、



アクアイグニス仙台の完成イメージ

ベーカリー棟、スイーツ棟、と興盛工業所（仙台市宮城農業ハウスなどで構成する。野区、小林照和代表取締役）の2社、設計・監理をARS（三重県、平野信義代表取締役）とBAU建築設計室（仙台市太白区、堀籠孝之代表取締役）、深松組一級建築士事務所が担当する。2021年10月の竣工、22年春のオープンを

造平屋5棟を予定している。仙台rebornは、深松組、アクアイグニス（立花哲也代表）ら3社で構成する特別目的会社。深松社長が代表取締役を務めている。

所長のコメント

■温泉棟を担当する深松組の佐浦悟所長「ビッグプロジェクトにかかわれ嬉しい。温泉施設に携わるのが初めてなので学びながら、JVさんとも連携して安全施工を心がける」

■木造棟を担当する阿部和工務店の岩佐信英所長（阿部和工務店）「工期はタイトなため、しっかりと段取りしたい。設計事務所、温泉棟の深松組さんとも密にやり取りをして良い品質の施設を無事故で引き渡す」



深松社長



深松組の佐浦悟所長

アクアイグニス仙台が本格着工

仙台 reborn（深松 努代表取締役）が仙台市の津波被災地に建設する複合施設「アクアイグニス仙台」（仮称）新築が着工を迎え、14日に現地で起工式が行われた。設計・監理はARTS（津市）、ほか2社、施工は深松組や阿部和工務店・中城建設JVなどが担当。東日本大震災の被災地

域にかつてのにぎわいを取り戻すべく、一大交流拠点整備が開始した。アクアイグニス仙台は、仙台市若林区藤塚地内に温泉や飲食店、マルシェなどを備えた複合施設。南北2ブロックに分かれており、北ブロックは温浴棟（RC2階建て、延べ2998・5平方メートル）やマルシェ・産

直レストラン棟（W造平屋建て、延べ605・7平方メートル）、マルシェ棟（同、延べ480・26平方メートル）、ベリカー棟（同、延べ331・2平方メートル）で構成。南ブロックは、Vスイーツ棟（W造平屋建て、延べ692・67平方メートル）▽保育所を含むイタリアンレストラン棟（同、延べ586・29平方メートル）▽フ

ルートハウス（延べ738平方メートル）×2▽ベジタブルハウス（延べ680平方メートル）を整備。南北合わせて延べ7850平方メートル規模で建設する。ことし1月に温泉掘削工事、4月に造成工事がそれぞれ着工し、このうち造成が9月30日に完了した。施設は2021年10月の竣工、22年4月のグランドオープンを目指している。設計・監理はARTSとBAU建築設計室、深松組一級建築士事務所が担当。

施工は温浴棟を深松組、マルシェ棟ほか木造棟を杜の都建設協同組合と阿部和工務店・中城建設JVが行う。運営は、三重県内で複合温泉リゾート施設を展開するアクアイグニス（東京都中央区 立花哲也代表取締役）と深松組などが共同出資して設立した仙台 reborn が手掛ける。

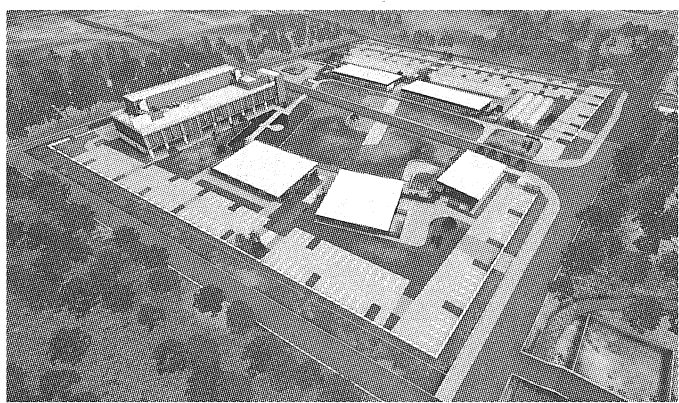
同事業は宮城県の「沿岸部交流人口拡大モデル施設整備事業」や仙台市の「東部沿岸部集団移転跡地利用事業」に選定されている。さらに温浴棟は高さを15メートル確保しており、津波発生時に避難場所の役割も果たす。式典には、仙台市の郡和子市長をはじめ、工事関係者ら約80人が出席。郡市長が祝辞を読み上げたほか、神事では、鎌入れをARTSの平野信義代表取締役とBAU建築設計室の堀籠孝之代表取締役、鎌入れを深松代表、立花代表、郡市長、鎌入れを深松組の深松徹取締役副社長、阿部和工務店の船山克也代表取締役社長、中城建設の結城創代表取締役、興盛工業所の小林照和代表取締役、ユアテック宮城支社の阿部克彦常務執行役員支社長がそれぞれ行った。

深松組・佐浦信現場所長の話
「仕事を任せていただき身の引き締まる思いだ。温泉施設の施工は初だが、常に勉強しながら無事故・無災害で竣工を目指す。現場は風が強いほか、冬季には雪も降るため転倒災害防止などに努めながら作業を進める。」

仙台市の津波被災エリアに複合施設

設計Ⅱ ARTSほか 施工Ⅱ 深松組、阿部和工務店・中城建設JVなど

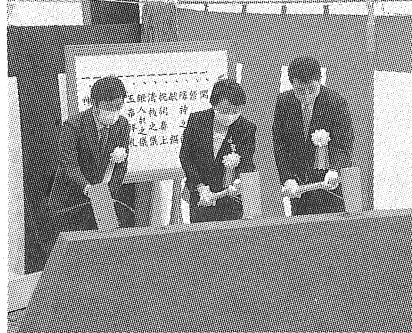
仙台 reborn



完成予想図



鎌入れする平野代表（右）と堀籠代表



鎌入れする深松代表（右）ら



鎌入れする船山社長（左から2番目）ら

深松代表は「施設が着工したこれからは本番だ。地域のにぎわいを取り戻す復興・創生のシンボルとなるよう、全力で工事を進めて行く」と話し、立花代表は「地元の魅力を最大限に引き出し、発信したい。復興の象徴として地域の人々から喜んでもらえる施設になれば」と述べた。また、施工者を代表して

その他施設施工

阿部和工務店・岩佐信現場所長の話



工期がタイトなため、うまぐら工期内の完成を目指す。かさ上げ道路が近く交通量が多いので、交通事故などにも気を付けて施工する。

「復興の象徴として地域の人々から喜んでもらえる施設になれば」と述べた。また、施工者を代表して

仙台市の津波被災エリアに複合施設

仙台 reborn
アクアイグニス仙台が本格着工

設計=ARTSほか、施工=深松組、阿部和工務店JVなど



完成予想図

建て、延べ605・7平方メートル、マルシェ棟（同、延べ480・26平方メートル）、ベーカー棟（同、延べ331・2平方メートル）で構成。南ブロックは、Vスイーツ棟（W造平屋建て、延べ692・67平方メートル）▽保育所を含むイタリアンレストラ棟（同、延べ586・29平方メートル）▽フルーツハウス（延べ738平方メートル）×2▽ベジタブルハウス（延べ680平方メートル）を備えた複合施設。南北2ブロックに分かれており、北ブロックは温浴棟（RC2階建て、延べ2998・5平方メートル）やマルシェ・産直レストラン棟（W造平屋

当。東日本大震災の被災地域にかつてのにぎわいを取り戻すべく、一大交流拠点整備が開始した。

アクアイグニス仙台は、仙台市若林区藤塚地内に温泉や飲食店、マルシェなどを備えた複合施設。

努力代表取締役）が仙台市の津波被災地に建設する複合施設（仮称）アクアイグニス仙台）新築が着工を控え、14日に現地では起工式が行われた。設計・監理はARTS（津市）、ほか2社、施工は深松組や阿部和工務店・中城建設JVなどが担

直レストラン棟（W造平屋

方）を整備。南北合わせて延べ7850平方メートルで建設する。ことし1月に温泉掘削工事、4月に造成工事がそれぞれ着工し、このうち造成が9月30日に完了した。施設は2021年10月の竣工、22年4月のグランドオープンを目指している。

同事業は、宮城県の「沿岸部交流人口拡大モデル施設整備事業」や仙台市の「東部沿岸部集団移転跡地活用事業」に選定されている。さらに、温浴棟の高さを15メートル確保しており、津波発生時に避難場所の役割も果たす。

式典には、仙台市の郡和子市長をはじめ、工事関係者ら約80人が出席。郡市長が祝辞を読み上げたほか、神事では、鎌入れをARTSの平野信義代表取締役とBAU建築設計室の堀篤孝代表取締役、鉄入れを深松代表、立花代表、郡市長、鋤入れを深松組の深松徹取締役副社長、阿部和工務店

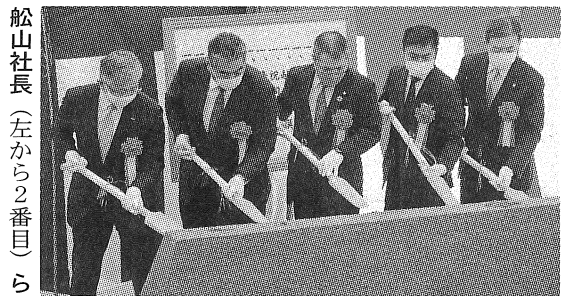
代表取締役、鉄入れを深松代表、立花代表、郡市長、鋤入れを深松組の深松徹取締役副社長、阿部和工務店



平野代表（右）と堀篤代表



深松代表（右）ら



船山社長（左から2番目）ら

の船山克也代表取締役社長、中城建設の結城創代表取締役、興盛工業所の小林照和代表取締役、ユアテック宮城支社の阿部克彦常務執行役員支社長がそれぞれ行った。

深松代表は「施設が着工したこれからは本番だ。地域のにぎわいを取り戻す復興・創生のシンボルとなるよう、全力で工事を進めて行く」と話し、立花代表は

温浴棟施工

深松組の佐浦悟現場所長の話



工事を任せていただき身の引き締まる思いだ。温泉施設の施工は初だが、常に勉強しながら無事故・無災害で竣工を目指す。現場は風が強いほか、冬季には雪も降るため転倒災害防止などに努めながら作業を進める。

「地元の魅力を最大限に引き出し、発信したい。復興の象徴として地域の人々から喜んでもらえる施設になれば」と述べた。

また、施工者を代表して船山社長が「多くの人が待望する施設の施工を任せていただき大変ありがたい。藤塚地区の魅力を最大限引き出せるよう工事に取り組んでいく」と力強く語った。

その他施設施工

阿部和工務店の岩佐信英現場所長の話



工期がタイトなため、うまく段取りしながら工期内の完成を目指す。かさ上げ道路が近く交通量が多いので、交通事故などにも気を付けて施工する。

22年4月開業へ

アクアイグニス仙台が起工

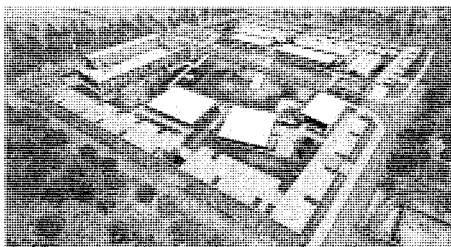
仙台 reborn

仙台市の深松組（深松 努代表取締役社長）を中心に設立した仙台 reborn（同代表取締役）は

14日、仙台市若林区藤塚の東日本大震災仙台市防災集団移転跡地に建設計画を進めていた複合施設「アクアイグニス仙台」の起工式を現地で行った。

22年4月の開業に向け本格着工した。

設計=ARTSら 施工=深松組ほか



同施設は、仙台市の防災移転跡地利活用事業として選定され、敷地3万4000平方メートル、農園レストランやベーカー棟、地元食材のマルシェ棟、天然温泉を利用する温浴棟などを整備する。

設計監理は、ARTS設計（三重県）、BAU建築設計室、深松組一級建築士事務所、施工は深松組を中心に、木造部分を阿部和工務店・中城建設JVが担当する。

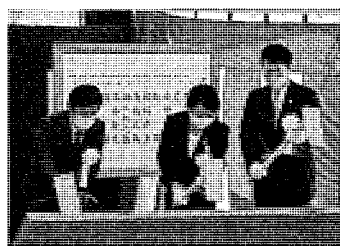
式典には関係者約80人が出席。鎌入れを平野信義ARTS代表取締役と



鎌入れの平野社長と堀籠社長（左）

堀籠孝之BAU建築設計室代表取締役、鎌入れを深松社長、立花哲也アクアイグニス代表取締役、郡和子仙台市長、鋤入れを深松徹深松組取締役副社長、船山克也阿部和工務店代表取締役社長、結城創中城建設代表取締役、小林照和興盛工業所

代表取締役、阿部克彦アテック宮城支社常務執行役員支社長が執り行い、玉ぐしを奉てんして



鎌入れの深松社長、郡市長、立花社長（右から）

工事の安全を祈願した。深松社長は「22年4月の開業に向け、また一歩前へ進んだ。開業により東日本大震災で被災したこの地域に、新たないき

わいを創出していく」とあいさつ。運営協力を行う立花社長は「地元企業の皆さんと一緒にプロジェクトを成功させ、地域に喜ばれる施設にした」と語った。郡市長は「施設が震災からの創造的復興の象徴となることを期待する」と話した。



鋤入れの深松副社長（中央）ら

最後に、施工者を代表して船山社長が「人々が待ち望んだ観光資源となるアクアイグニス仙台を施工させていた、だくことはこの上ない喜び。施設に訪れる方々の笑顔を思い浮かべながら、安全に良い品質で、期限内に引き渡しができるよう総力をあげて取り組む」と決意を述べた。